

WS2-2 ワークショップ(2)

英語教員に求められる子音の理解と実践方法¹

桑本 裕二 (公立鳥取環境大学)
kuwamoto@kankyo-u.ac.jp

1. はじめに

本発表は、桑本 (2017) の内容に基づき、特に子音の指導法を考察するものである。桑本 (2017) では英語の 24 子音を、初学者が理解しやすい順に 3 種に分類し、順を追って学べるようにした。本発表はそのなかから特に興味深い、また重要性が高いと思われる指導法について 3 項目選び、考察する。

2. 桑本 (2017) による英語子音の分類

桑本 (2017) では、英語の 24 子音を以下の 3 段階に分類した。

- (1) 1) 日本語の音とほとんど同じ音 (6 子音)

[p] [b] [k] [g] [ʃ] [dʒ]

- 2) 日本語と少し違う場合のある音 (9 子音)

[m] [n] [j] [w] [s] [z] [t] [d] [h]

- 3) 日本語にない音 (9 子音)

[f] [v] [θ] [ð] [ʌ] [ɜ] [ɪ] [ɪ] [ɪ] [ɪ]

桑本 (2017: 41f.)

子音の発音実践は 1) の 6 子音から行うが、「[p] は無声両唇閉鎖音である」といったような調音音声学的な言及はなるべく避ける。これらの 6 子音は、いわゆる英語特有の（そして日本語には存在しない）音ではないということについて、日本語の五十音表の「～行」の頭子音と同じであることを認識させる²。

- (2) [p] …… 「パ行」の頭子音

[b] …… 「バ行」の頭子音

[k] …… 「カ行」の頭子音

[g] …… 「ガ行」の頭子音

[ʃ] …… 「チャ行」の頭子音

[dʒ] …… 「ジャ行」の頭子音

(1) の分類中、2) と 3) にある子音については、それぞれ教授法に工夫が必要である。次節では桑本 (2017) に掲載された例に基づき、3つの項目を取り上げ、効果的な発音の教授法について考察する。

3. 実践例

3.1 [ʌ] と [ɜ] の区別

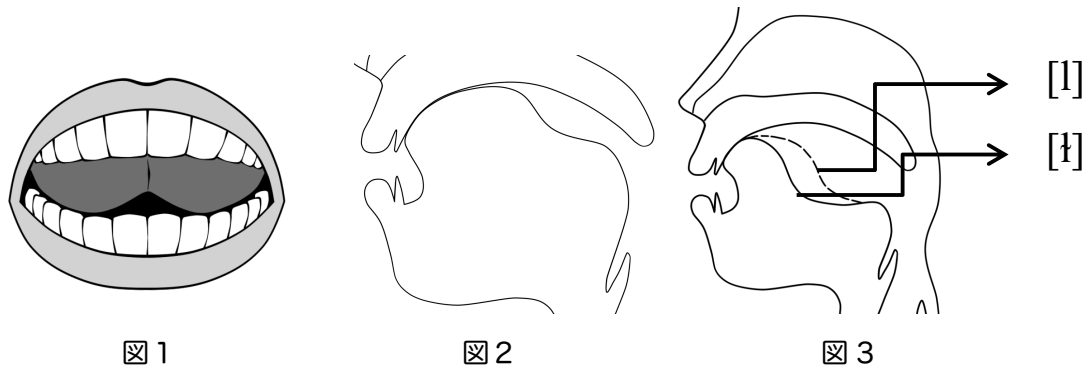
初学者向けには、英語特有の「むずかしい」発音として [ʌ] と [ɜ] の区別が代表的である

¹本発表の内容は、平成 29 年度教員免許状更新講習（2017 年 8 月 4 日、公立鳥取環境大学（桑本・中村 2017））および英語授業（「英語 LL 演習」秋田工業高等専門学校（桑本 2012）、「Intensive English」公立鳥取環境大学）における実践をふまえたものである。

²いわゆる「カタカナ読み」は英語発音の弊害であると言われるが、1) の子音に限っては「カタカナ読み」が正しいということを強調する。そのことによって、たとえば 3) の子音との区別を明確に意識させることができる。

ので慎重に扱うべきである点を強調する。また、[ɹ] は原則的に文字 <r> で書くが、日本語のラ行音をローマ字で書くとき、同じく <r> を用いることに影響されて、同一音であるという誤解に陥らないように注意させるべきである。また、日本語のラ行音の子音 [ɹ] が、英語の [l] と [ɹ] と異なる音であること、英語をはじめ、多くの言語で、流音に l 系の音と r 系の音の区別があるのに、日本語は r 系のみしかない点が、英語発声時における [l] と [ɹ] の区別の意識を薄れさせていることなどを強調して指導するべきである。

[l] については、イラスト (図 1)、調音器官の断面図 (図 2) などにより舌の位置を確認した後、*lily, love* など、[l] を (主に語頭に) もつ単語を発音する練習をさせる。また、dark l [ɫ] に関して、その舌の位置の違いや、[ɫ] が母音に近い音色をもつことが、[l] に比べて口腔が広がるのでソノリティが高くなることに起因することを図解とともに示し (図 3)、語末に [ɫ] をもつ *beautiful, full* などの単語を発音して確認させる。



[ɹ] については、以下のような記述によって説明を試みている。

- (3) 「ラリルレロ」で 5 回舌が上あごをたたくのを、無理矢理一度も触れないようにして「ラリルレロ」と言おうとしてみてください。何とも言えない、柔らかいものが漂うような不思議な音色になると思いますが、このときにほぼ英語の [rarirurero]³ に近い音が出せているはずです (桑本 2017:74f.)。
- (4) 日本語で「ラリルレロ」と言うと、舌の先が口の中の上を 5 回軽くたたきます。この「たたき」をなくして「ウアウイウウエウオ」のようになめらかな音にすると、それが英語の [ɹ]⁴ です。“Laura”さんは、[l] も [ɹ] もでてくるので良い練習になります (中村他 2015:49)。

さらに、[l] と [ɹ] の最小対立の組 (5)、[l] と [ɹ] を両方含む語 (6) をいくつか発音する演習を行う。

- | | |
|--------------------------|-------------------------|
| (5) light — right | (6) rule |
| glass — grass | really |
| low — row | Australia |
| lock — rock 桑本 (2017:75) | vocabulary 桑本 (2017:76) |

³ 桑本 (2017)、中村他 (2015) では、英語の [ɹ] は [r] と表記することに統一している。

⁴ 注 3 を参照。

3.2 わたり音 + 高母音 の連鎖

前舌の高母音 [i] とわたり音 [j], 後舌の高母音 [u] とわたり音 [w] の類似性を, (7) のような現象から納得させ, それゆえに [ji] [wu] の連鎖が困難であることを説明する. [I]/[I] の区別に比べると目立たないが, 実際には潜在的に困難な英語発音であることを強調する.

(7) 「い, あ, い, あ, ……」 i.a.i.a.i.a... → 「や, や, ……」 ja.ja.ja...

「う, あ, う, あ, ……」 u.a.u.a.u.a... → 「わ, わ, ……」 wa.wa.wa...

この項目については, 発表者は以下のように説明している.

(8) [wu] としては, woman [wómən] 「女性」 wood [wód] 「木材」 [ji] としては year [jíəɹ] 「年」がありますが, いずれも外来語的にカタカナで書かれると, 「ウーマン」「ウッド」「イヤー」のように, 母音で始まっているように発音され, そして書かれます. ……[wu] は, ……「ウ (ー)」のようになってしまいます. これを防ぐために, 「ウオ」をカタカナ読みするようにすると, 「え? それでいいの?」という感じですが, 十分本当の音に近いといえます. “woman [wómən]” は「ウーマン」よりは「ウオマン」と読むつもりくらいの方が, ネイティブスピーカーには通じるのです. [ji] に対しては, ……「イ」を強めに発音する, という感じ, たとえば, 小さい「イ」をはじめに読むつもりで, “year [jíəɹ]” などは「イイヤー」のように読むつもりで発音すればどうでしょうか? (桑本 2017:57f.)

3.3 歯擦音 [θ] [s] [ʃ] の区別

[s] は, 第2節の (1) の分類では, 2) 日本語と少し違う場合のある音 である. 1) 日本語の音とほとんど同じ音の子音群になぞらえれば, 「サ行」の頭子音を表すことになるが, 日本語では [i] が後続する場合, 口蓋化して [ei] (し) になるので, 口蓋化しない [si] の発音は, 特に英語初学者にとっては極めて困難である. 例えば現代日本語において, 「シリーズ (series)」に対して「スィリーズ」とでも表記すべき非口蓋化音が未だに許容されていないことは, 当該の [si] の発音をさらに困難にさせている一因であると推察される.

なお, 英語の後部歯茎音 [ʃ] は原則的に <sh> と綴り, 日本語の「し」はローマ字 (ヘボン式) で <shi> と綴ることから両者の音を同一視する傾向も, (少なくとも初学者には) 見受けられる (桑本・中村 2017). 桑本 (2017:85) では, 英語における [sɪ/si:], [ʃi/ʃi:] と日本語の [ei] (し) の区別について, 次のような対立を反復練習することを提案している.

(9) sea [sí:] — she [ʃi:] — しい (椎) [éi:]

また, 歯音 [θ] は 3) 日本語にない音 であり, これを含む外来語 (あるいは無理にカタカナに直した語) は「サンキュー」 (<Thank you.) 「シンク」 (think) のように, [s] (または [ei]) で代用される. 桑本 (2017:83) では, 英語の [s] と [θ] の最小対立を練習する例を挙げている.

(10) sing [sín] 「歌う」 — thing [θín] 「もの」

sum [sám] 「合計」 — thumb [θám] 「おやゆび」

mouse [máus] 「ねずみ」 — mouth [máuθ] 「口」

以上の [θ] [s] [ʃ] [ɛ] については、調音点を図示することは微細な差異を認識する上で極めて有効であると思われる (図 4)。

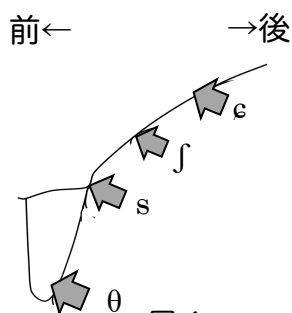


図 4

桑本 (2017:84), 桑本・中村 (2017)

4. まとめ

以上、桑本 (2017) による子音の効果的な教授法について述べた。

桑本 (2017) は、英語の子音を調音点、調音様式によらず、日本語との異同や類推のしやすさによって 3 つに分類し、そのそれぞれについて順を追って説明することが、日本語から英語の音韻体系へ意識的に移行できる、あるいは発音実践をしやすいことを示した。本発表では、最も興味深い、また重要性が高いと思われる指導法として、3 項目について教授法を考察した。

発音指導の際には、共通して、以下の 3 点を意識することが特に重要だと思われる。

- i. 日本語の音韻との異同を常に意識させる。
- ii. 特にこれまで未知の音韻対立に対して明確に聞き分け、発音し分けを意識的に行わせる。
- iii. 発音の実践をできるだけ個別に、丁寧に行う。

参考文献

- 桑本裕二 (2012) 「発音指導に主眼をおいた「英語 LL 演習」の実践」『秋田工業高等専門学校研究紀要』第 47 号, 99-105.
- 桑本裕二 (2017) 『改訂版 小学校英語 発音のフシギ』秋田：秋田魁新報社.
- 桑本裕二・中村弘子 (2017) 「英語授業における発音を見直そう！」平成 29 年度教員免許状更新講習ハンドアウト, 2017 年 8 月 4 日, 公立鳥取環境大学.
- 中村良夫・高橋邦行・Alexander McAulay・桑本裕二 (2015) 『小学校英語の発音と指導—iPad アプリ「白柴さくらのえいごカルタ」読本—』東京：開拓社.